

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	3(4)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nishimur@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(前期)</p> <p>1年次に身につけた学力を基にして、ほぼ標準速度のスピーチを使いさらなる聴解力向上のための訓練を行なう。この授業では推測して要点をつかむ力を養成することが目的であり、同時にテキストからは言葉の使い方や自己表現の仕方を学ぶ。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
English A,B,C,D (この単位を履修していないと登録が出来ない)

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
ケイ・ヘザリー共著 What's New? 2 (DHC出版) NHK「英会話」で放送された身近な話題にかんする約1分のスピーチ集。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

前期（ノーマル・スピードを聴き取る、言葉の使い方を学ぶ）

NHKラジオ英会話で用いられたスピーチなので話す速度は英米人の標準とほぼ同じ。そのため最初は難しく思われるかも知れないが、目標は約7割の理解度をを目指す。英語自体は易しいので、音声と文字による理解の落差を少しずつ埋めていきたい。リスニング・テキストではあるが、自分の意見を表現するのに便利な表現が多いので、英文を使用例とみなし言葉の使い方を観察して表現力向上に役立てる。毎授業で2～3話を扱う。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法

- (1) 期末試験（受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件）
- (2) 出席状況（妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をする）
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方

評価基準・以下の基準に基づく。

（大学作成）

100～90点は秀、89～80点は優、79～70点は良、69～60点は可、60点未満は不可。平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に参入されるので注意すること。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れる時間を生活の一部に組み込むことが肝要です。
2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧めです。

【その他】

1. 授業ではノートを使いましょう。
テキストに書き込むのは手軽のようですが、学習に役立つ手作業としての効果は薄いです。
2. 教室での座席は、各自が選んだあと毎回同じ席を使います。